

令和 5 年 6 月 13 日現在

機関番号：32665

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2022

課題番号：19K02859

研究課題名（和文）「省察的探究」と「ラウンドテーブル」の融合による高大接続教育モデルの実証研究

研究課題名（英文）Experimental Research on Educational Model of Connecting High school and University Integrating Reflective Inquiry and Round Table

研究代表者

松田 淑子（MATSUDA, Toshiko）

日本大学・生物資源科学部・教授

研究者番号：00452128

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：高大接続教育プログラムの開発を目指し、探究の深化と評価の一体化を図った「金沢大学高大接続ラウンドテーブル」を開発、実践、検証した。その結果、学習者への教育効果、及び学習支援者や評価者の力量形成の有効性が認められ、本ラウンドテーブルが探究学習にもたらす価値を明らかにすることができた。

また、「金沢大学高大接続ラウンドテーブル」を金沢大学入試システムに位置付け、高大接続教育モデルとして実践し、評価を受けることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

学校教育における探究型の学びへの転換に向け、評価方法の確立、及び支援者教育プログラム開発は重要課題である。とりわけ、探究を軸とした高大接続教育モデルの開発と普及が最大の課題とされている。本実践研究により、「ラウンドテーブル」スタイルが探究学習における学習者及び学習支援者や評価者にもたらす教育効果を証明できたことが学術的意義と言える。また、本「ラウンドテーブル」を大学入試システムに位置付け、高大接続教育モデルとして提案、評価されたことにより、社会的意義をもたらすことができた。

研究成果の概要（英文）：We aimed to develop a high school-university collaboration education program. We designed, practiced and verified "High school-University Collaboration Roundtable-model". As a result, we found the effectiveness of education for learners and the ability building of learning assistants and evaluators. We found that this roundtable is valuable for the depth of inquiry learning. The "Kanazawa University High school-University Collaboration Roundtable" was positioned as the entrance examination system for Kanazawa University. It was evaluated as a model of high-university connected education.

研究分野：教育学

キーワード：探究 ラウンドテーブル 高大接続 大学入試改革 協働 教員研修 省察

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

1990年以降、主として先進国で取り組まれてきた所謂「新しい能力」(松下佳代、2010)への転換は、AIの高度化、ネットワーク化により加速、拡大し、世界共通の教育課題となっている。日本の学校教育においても、1996年中央教育審議会答申「21世紀を展望した我が国の教育の在り方について」で「生きる力」が示され、OECD「Education2030プロジェクト」等を理論的背景に2008年学校教育法改正により「学力の3要素」(知識・技能、思考力・判断力・表現力、学習意欲)が示された。これら一連の流れを背景に、思考力、とりわけ探究力(国際バカロレア(IB)の10の学習者像の第1項目はInquirers:探究する人)の育成が注視されている。研究開始当初は、2018年告示の新高等学校学習指導要領において、「総合的な探究の時間」をはじめ「理数探究」等「探究」を冠する科目等が複数新設され、高校教育の探究モードへの転換が明白となった時期であった。一方、高校教育改革・大学教育改革・高大接続改革の三位一体改革(中央教育審議会答申「新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について」2014年12月)が推進される中、大学入学者選抜においても「学力の3要素」の多面的・総合的な評価への転換が迫られていた。2020年度大学入試改革を目前に、探究型授業や学力観への転換、探究力の評価方法の開発は高校・大学双方にとって喫緊の課題となっていた。

2. 研究の目的

時代の要請である探究型教育への転換、真に高校生の探究力の育成を図るには、高校生への支援とともに、学習支援者や評価者である高校・大学教員のこれまでの教育観や教師観、評価観などを根底から問い直す必要があり、ダイナミックなアプローチが必要である。教員側の力量形成も連動させた高大接続教育プログラムの開発が必要である。

そこで、本研究の目的を以下の2点とした。

(1) 探究の深化と評価の一体化を目指した「金沢大学高大接続ラウンドテーブル」を開発、実践し、学習者への教育効果、及び学習支援者や評価者の力量形成の有効性を検証し、本ラウンドテーブルが探究学習にもたらす価値を明らかにする。

(2) 「金沢大学高大接続ラウンドテーブル」を新しい大学入試システムの中軸に位置付け、高大接続教育モデルとして提案する。

3. 研究の方法

本研究では、文献等による基礎研究のほか、目的に即して以下3点を研究方法とした。

(1) 「金沢大学高大接続ラウンドテーブル」における探究の深化と評価について、以下2点の調査を実施し検証する。

ラウンドテーブル参加高校生の事後レポート及び聴き取り調査の分析

ラウンドテーブル参加教員(高校・大学)らへの聴き取り調査の分析

(2) (1)の結果と基礎研究による成果を反映させ改良しながら、「金沢大学高大接続ラウンドテーブル」を継続実施する。これらと並行し、「ラウンドテーブル」を金沢大学新入試システム(KUGS特別入試)に位置付ける。

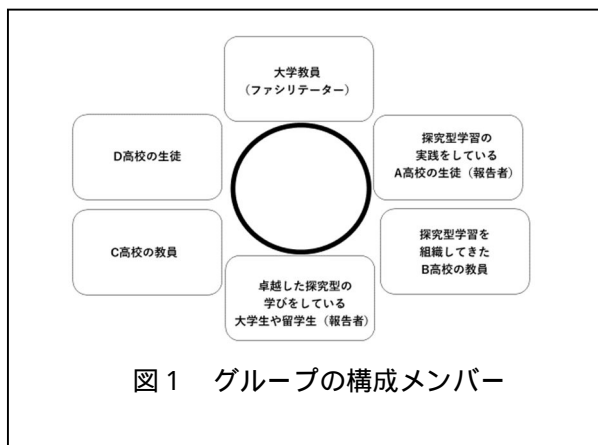
(3) (1)(2)による研究成果を理論化し汎用性を持たせ発信する。

4. 研究成果

目的(1)における成果は以下の通りである。

「金沢大学高大接続ラウンドテーブル」で用いたラウンドテーブル手法は、福井大学において2001年より継続開催されている「実践研究福井ラウンドテーブル」に依拠し、多様なメンバーによる小グループの中で高校生や大学生(語り手)が自身の探究実践を振り返りながらじっくりと語り、メンバー全員で聴き合うことで省察を深めるスタイルを踏襲している。(柳澤昌一、2015)。このスタイルをとりながら、デューイの「探究」における「振り返り反省することの重要性」(藤井千春、2010)を理論的枠組みとした「省察的探究」を重ね設計した。

多様なメンバーによる学びのコミュニティとなるよう設計したグループメンバーの構成は、図1の通りである。



事後レポート及び聴き取り調査より、参加した高校教員や高校生がその後自ら探究活動に挑戦した事実が多く示され、本ラウンドテーブルのインパクトにより参加者の実践的学びを引き起こしたことが確認できた。また、参加した大学教員は、自身の所属する学部の入試改革に高校生と大学生による「ラウンドテーブル」を取り入れ実践するなど、大学教員の意識変革と行動による高大接続改革へとつながったことも確認できた。総じて、本ラウンドテーブルの高大接続への可能性への評価、学び合いのコミュニティ創造に対する評価、高校生や教

員の成長や変容を促す効果について確認することができた。

またその結果、主催者である研究代表者らが教員研修の講師として高校に招聘されることも多くなり、日常的な高大のつながりを果たした。本ラウンドテーブルから波及した新たな可能性も開拓されたと言える。

目的(2)における成果として、生徒の探究の深まりを支援することと評価者の評価力醸成の双方を目指した「協働支援型評価」を提案し、高大接続教育システム開発の視点から実践、提案することができた。

その結果、本「金沢大学高大接続ラウンドテーブル」を、金沢大学 KUGS 特別入試の KUGS 高大接続プログラムに「KUGS ラウンドテーブル」として位置づけることができた。金沢大学 KUGS 特別入試は、文部科学省高等教育局により、令和3年度大学入学者選抜における好事例集に選定され、高大接続改革や大学入学者選抜方法の改善のモデルケースとして高く評価、公開されている。

総じて、探究の深化と評価の一体化を目指した「金沢大学高大接続ラウンドテーブル」により、学習者への教育効果、及び学習支援者や評価者の力量形成の有効性が認められ、概ね本ラウンドテーブルが探究学習にもたらす価値を明らかにすることができた。

さらに、「金沢大学高大接続ラウンドテーブル」を金沢大学入試システムに位置付け、高大接続教育モデルとして実践し、評価を受けることができた。

今後の課題としては、目的(1)の発展として、探究の深化と評価のための教員の力量形成を、養成段階から実施できるシステムの開発を実践的に行うことである。また、目的(2)においては、拡大重視傾向にある育成型総合型選抜大学入試に本ラウンドテーブルを広く位置付けていくことである。

引用文献

- 田村学・松田淑子・山下真司・園田哲郎・松原恵子・北村仁志、コロナ禍における高等学校の「総合的な探究の時間」の取組と可能性、日本生活科・総合的学習教育学会誌、第28号、41-48、2021
- 中野正俊・井上咲希・田中千晶・和田啓吾、高大接続入試とラウンドテーブルとの関わりと評価 - 高大接続ラウンドテーブルから始める高大接続入試 -、大学入試研究ジャーナル、32、244-250、2021
- 藤井千春、デューイの思考論 - 知性的な思考の構造的解釈、早稲田大学出版部、2010
- 松下佳代、「新しい能力」は教育を変えるか - 学力・リテラシー・コンピテンシー、ミネルヴァ書房、2010
- 松田淑子、探究型の高大連携実践から拓く大学入試改革への展望、福井大学高等教推進センタ - 年報、No.4、47-60、2014
- 松田淑子、連携を中心とした高大接続の在り方へ ~ 福井大学 高大連携ラウンドテーブルの試み ~、高校改革の事例から探る高大接続の在り方、文部科学教育通信、No.333、教育新社、20-21、2014
- 松田淑子・加藤隆弘・小池田満・中村雅恵・谷内比能雄、探究的な学びへの転換をめざした教員研修 - 自らの探究活動を中心とした教職大学院のカリキュラム開発 -、金沢大学人間社会研究域学校教育系紀要、第11号、27-34、2019
- 松田淑子、「総合的な探究の時間」における「深い学び」を目指した省察的探究と協働支援型評価、学校教育研究、No.36、63-76、2021
- 松田淑子、生きるための術としての「探究」 - 「考える」ことを軸とした学び合い -、石川教育展望、No.73、21-25、2021

- ・ 柳澤昌一、ラウンドテーブルの構成と意味、教師教育改革コラボレーション報告書 福井大学大学院教育学研究科教職開発専攻（教職大学院）2-4、2015

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 5件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 松田淑子	4. 巻 36
2. 論文標題 「総合的な探究の時間」における「深い学び」を目指した省察的探究と協働支援型評価	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 学校教育研究	6. 最初と最後の頁 63-76
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 松田淑子	4. 巻 73
2. 論文標題 生きるための術としての「探究」 - 「考える」ことを軸とした学び合い-	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 石川教育展望	6. 最初と最後の頁 21-25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 杉森公一	4. 巻 22
2. 論文標題 ハイフレックス型授業の可能性 - 授業設計・教育学習方法の革新と包摂 -	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 名古屋高等教育研究	6. 最初と最後の頁 185-196
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18999/njhe.22.185	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 中野 正俊, 井上 咲希, 田中 千晶, 和田 啓吾	4. 巻 32
2. 論文標題 高大接続入試とラウンドテーブルとの関わりと評価 高大接続ラウンドテーブルから始める高大接続入試	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 大学入試研究ジャーナル	6. 最初と最後の頁 244-250
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田村学・松田淑子・山下真司・園田哲郎・松原恵子・北村仁志	4. 巻 第28号
2. 論文標題 コロナ禍における高等学校の「総合的な探究の時間」の取組と可能性	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本生科・総合的学習教育学会誌	6. 最初と最後の頁 41 - 48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松田淑子・加藤隆弘・小池田満・中村雅恵・谷内比能雄	4. 巻 11
2. 論文標題 探究的な学びへの転換をめざした教員研修 - 自らの探究活動を中心とした教職大学院のカリキュラム開発 -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 金沢大学人間社会研究域学校教育系紀要	6. 最初と最後の頁 27 - 34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計20件（うち招待講演 13件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 松田淑子
2. 発表標題 総合的な探究の時間の取組を生かした探究的な学びへの転換について
3. 学会等名 新潟県 令和3年度 第1回総合的な探究の時間推進事業連絡協議会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 松田淑子
2. 発表標題 探究の常態化を目指して ～小・中・高・大の学びの実態から～
3. 学会等名 広島市立基町高等学校「総合的な探究の時間」公開発表会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 杉森公一
2. 発表標題 主体的な学びの場を形成するためのFDの役割
3. 学会等名 東京工業大学オンライン学修環境シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 杉森公一
2. 発表標題 デジタル時代の高大接続:主体的、対話的で深い学びへと繋ぎ結ぶ ICT活用教育と探究学習
3. 学会等名 石川県高大連携セミナー（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 松田淑子
2. 発表標題 高等学校「総合的な探究の時間」、探究の高度化と自律的な探究の学びづくり
3. 学会等名 日本生活科・総合的学習教育学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 松田淑子
2. 発表標題 『総合的な探究の時間』を創ろう！
3. 学会等名 山梨県総合教育センター 教員研修会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 松田淑子
2. 発表標題 高校教育における探究学習の現状と課題 そして 高大接続教育の可能性
3. 学会等名 北陸大学経営学部教職員FD研修会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 松田淑子
2. 発表標題 高校教育における探究の可能性 ～協働エージェンシーの醸成～」
3. 学会等名 神奈川県「総合的な探究の時間」教育課程説明会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 松田淑子
2. 発表標題 高等学校における探究的な学びについて
3. 学会等名 新潟県高校生探究フォーラム教員研修会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 中野正俊
2. 発表標題 金沢大学KUGS特別入試の取り組み：探究学習を題材とするレポートの評価を中心に
3. 学会等名 大学コンソーシアム石川 令和4年度 第8回FD/SD研修（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 中野正俊
2. 発表標題 「育成型」総合型選抜における高大接続の試み：入学者のヒアリング調査から
3. 学会等名 第29回大学教育研究フォーラム
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 松田淑子
2. 発表標題 高大連携の需要と教育的効果 ～高校教育現場の変容「探究」を軸に～
3. 学会等名 日本大学生物資源科学部令和4年度FD研修会（招待講演）
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 日向野幹也編 分担執筆 杉森公一	4. 発行年 2022年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 232
3. 書名 大学発のリーダーシップ	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>金沢大学KUGS特別入試は、文部科学省高等教育局により、令和3年度大学入学者選抜における好事例集に選定された。 https://www.mext.go.jp/content/20220818-mxt_daigakuc02-000005145_2.pdf</p>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	杉森 公一 (SUGIMORI Kouichi) (40581632)	北陸大学・公私立大学の部局等・教授 (33304)	
研究分担者	井上 咲希 (INOUE Saki) (90740275)	金沢大学・高等教育開発・支援系・特任助教 (13301)	
研究分担者	中野 正俊 (NAKANO Masatoshi) (60813623)	金沢大学・高大接続コア・センター・特任助教 (13301)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関